

## 教授就任のご挨拶



昭和 55 年卒  
大阪大学保健センター  
大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学  
教授 たきはら けいこ 瀧原 圭子 (旧姓 山内)

この度、平成 20 年 4 月 1 日付けをもちまして、大阪大学保健センター（兼）大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 教授に就任いたしました。昭和 55 年に長崎大学医学部を卒業すると同時に、出身地である大阪に戻り大阪大学医学部第三内科に入局しましたので、長崎医学同窓会の皆様には大変ご無沙汰しております。少し遅くなりましたが、長崎医学同窓会の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、仁徳天皇陵と千利休で有名な大阪府堺市で生まれ育ち、高校卒業までは生粋の浪速っ子でした。縁あって長崎大学に進学し、長崎をはじめとした九州、日本各地から集まったクラスメートと楽しく充実した学生生活を送りました。学生時代はテニスに明け暮れ、長崎大学医学部を卒業したというより軟式庭球部を卒業したという印象が強い 6 年間でした。春の九山医体、夏の西医体／全医体、秋の神田杯、それぞれの前には合宿や強化練習など、そしてその間にかろうじて試験勉強をするような年間スケジュールでした。当時の軟庭部顧問の西森一正先生、そして女子部の監督だった乗松敏晴先生には、さまざまな局面で大変お世話になりました。多くの先輩の心強いサポートを得て、医学部 3 年生の時には念願の全医体団体戦・個人戦の優勝を経験することができましたが、この間に軟式庭球部のメンバーと共有した多くの苦楽は、今では忘れることのできない思い出です。

学生時代より夏休みなどに実習に参加していた国立病院が大阪大学医学部第三内科の関連病院であったこと、大阪大学の他の内科に比べて他大学出身者に対しても平等にチャンスを与えてくれるという評判が高かったことが理由で大阪大学医学部第三内科に入局しました。第三内科のリベラルな雰囲気および spirit は、その後の私のキャリア形成に多大な影響を与えてく

れることとなり、本当に有り難いと感じています。ちょうどこの年に、岸本 進先生が熊本大学から第三内科の教授として戻ってこられました。大阪大学での研修の後に日本生命済生会付属日生病院でさらに 1 年間研修を積んだ後、大阪大学大学院に入学しました。学生時代に橋場邦武先生の講義を受けた頃から循環器内科に興味を持ち、さらには臨床の現場で「薬のさじ加減一つ」で症状が改善し患者さんに喜んでもらえるという、内科医としての醍醐味を最も感じることができる魅力に惹かれ、循環器グループに所属しました。大学院では摘出灌流心を使用した心臓の生理学および代謝に関する研究が主でしたが、卒業の頃から心筋収縮蛋白であるミオシンの生化学的研究に興味を持ちました。

昭和 62 年より縁あってトロント大学トロント総合病院の心臓血管研究センターにポスドクとして留学する機会を得て、初めて分子生物学的実験手法を用いた心臓病研究に従事しました。Dr. M.J. Sole の研究室では、すでにハムスターの心臓から心筋ミオシンの単離同定に成功していましたので、私はヒトのミオシン遺伝子の単離をめざし、世界で初めてヒト心筋  $\alpha$  型および  $\beta$  型ミオシン重鎖遺伝子の全構造を決定することに成功しました。

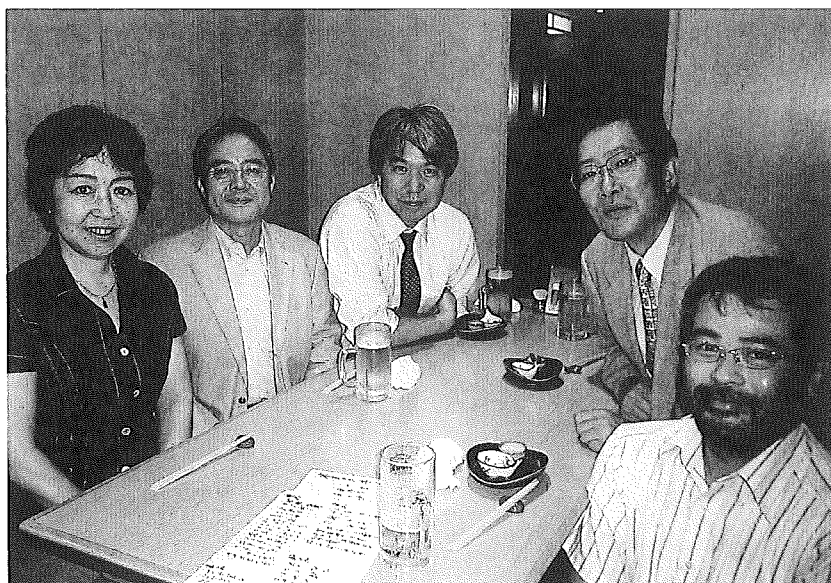
平成元年に帰国後は、第三内科で循環器領域の分子生物学的研究をすすめるとともに、当時、家族性肥大型心筋症の原因遺伝子が  $\beta$  型ミオシン重鎖遺伝子であることが報告されましたので、国立循環器病センターとの共同研究を展開して、日本人を対象とした家族性肥大型心筋症の病因解析に携わりました。平成 3 年には、岸本忠三先生が新たに教授として就任され、免疫グループだけでなく第三内科に存在するすべてのグループ（内分泌、消化器、血液、循環器、呼吸器グループ）が、それぞれの疾患領域における病態とサイトカインを中心とした研究

を展開することになりました。循環器グループでも、心筋症や心不全の病態へのサイトカインの関与を明らかにするとともに、心筋細胞におけるサイトカインシグナルに関する研究を展開し、実験や学会発表に忙しい日々を過ごしました。岸本教授のもとで研究の楽しさ(苦しさ?)を学び、平成7年からは循環器グループのチーフとして臨床および学生教育、そして大学院生の研究指導を行ってきました。平成12年には、大阪大学医学部でも内科の臓器別再編が実施され、第一内科や第二内科の循環器グループと一緒に、新たに循環器内科の一員として外来医長や診療局長を経験しました。

平成16年に大阪大学保健センターに助教授としてポストを得て、循環器内科と兼任しながら診療と研究を続けてきました。保健センターでは学生や職員の健康診断だけでなく、さまざまな健康相談窓口の役目も果たさなければいけません。大阪大学は職員数7,000名、学生は2007年10月の大阪外国語大学との合併を経て23,000名と日本一の学生数を抱える大学となっています。これまでの循環器内科診療だけでは経験することが少なかった、現代の若者が抱えている問題にも直面しつつ、すべての大学構成員のウェルネスをめざして、また新たな勉強をさせていただいています。

大阪大学では、以前には57年卒の高橋俊樹先生と58年卒の永江康信先生がそれぞれ心臓血管外科と眼科で活躍しておられ、さまざまな診療の場でお世話になりました。最近では、片山一朗先生をはじめ朝野和典先生や大石和徳先生も教授に就任され、その他にも長崎大学の仲間が増え大変心強く思っています。非公式の支部会(飲み会?)を定期的で開催しています。長崎大学で医学教育を受け、大阪大学で医師として研究者として育てていただきましたが、この間、自分の意思とは関係なく多くの方々との素晴らしい出会いがあり、多くのチャンスを与えていただきました。「一期一会」を大切にしつつ、その時々をベストを尽くしてここまで仕事をしてきましたが、さまざまな状況において「縁」というものを強く感じています。これからも長崎との「縁」を大切にしつつ、微力とは存じますが長崎医学同窓会の皆様にお役に立てればと思っています。

最後になりましたが、永らく長崎を離れている私に、今回このようなご挨拶の機会を与えていただきました、軟式庭球部先輩の河野茂先生に心より感謝申し上げます。同窓の先生方の益々のご発展とご健勝をお祈りするとともに、今後とも益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



(写真：平成21年9月14日：豊中市にて)